



「終戦前年の6月5日午後2時、サイパンに向っていた水上艇が、目的地が米軍の空襲に会い、已むなく父島へ転進中、そこも米軍の空襲に会い、艇から降り切れなかった3分の2の乗員が戦死しました。一旦、貨物、船で横須賀へ戻ることになりました。

真夜中の航海中、米軍の魚雷にやられ15分で沈没。生きていた者は海に飛び込み、船から浮遊物を探すうち、キャッチャーボートに運よく乗ることができました。定員は20名位だったと思います。ところが後からも後からも次から次へと助けてくれと叫びながらボートのヘッジにぶら下る者がおりました。しかし、これ以上乗せたらこのボート自体が沈む事を経験上知っている方だったと思いますが、自身の軍刀を抜いて、両手首を切り落したのです。私は只々呆然としてぶるぶるふるえており、言葉など出ませんでした。両手を切られた方はブクブクと泡を出して沈んでいきました」(第三期兵科予備学生の記)

'09年のグアムの地区大会は好天に恵まれ青い空とどこまでも澄んだ青い海とが広がり特に最終目のレセプションではPB地区の8RCの仲間とは皆、混りあつての正に友好の輪が広がりました。65年前の惨状とは別世界の平和のありがたさでした。

この一刻を是非ともいつまでもいつまでも大切にしたいとつくづく思いました。

ロータリークラブは大幅な会早の減少で存亡の時などといわれています。確かに困難な時代でしょう。しかし、平和の礎となられた多くの先達の犠牲から思えばとても小さな問題です。要はこの太平の世でロータリークラブの内外を問わず一人一人がこの瞬間は二度とないのですから、それこそ一期一会の気概をもって誠心誠意一つ一つの出会いを大切にしたいものです。こうした出会いはおのずから増強にも力になるはずです。『明るく楽しく人のため』を信条にロータリークラブ活動を広げましょう。争のない明るい世界と楽しい親睦、そして他人を思いやる奉仕の言動を旨として一日一日を真剣に生きたいものです。



2009-10年度のカバナー補佐の大役を務めさせていただきます。浅学非才の私ですが、皆様のご協力を得て、任務を全うしたいと思いますので、ご指導とご協力をお願い申し上げます。

ガバナー補佐の役割は、クラブと地区のパイプ役として、地区及び、クラブ目標の実現のため側面からクラブを支援させていただくことであると思います。

さて今年度のRIのテーマは「ロータリーの未来はあなたの手の手に」です。そして久邇ガバナーの地区目標は具体的に五つの方策を掲げております。

- 1). 会員基盤強化(会員増強、一クラブ拡大)、
- 2). 職業理念を基盤として四大奉仕活動の推進、
- 3). ロータリー財団の支援、
- 4). 米山記念奨学会への支援、
- 5). 新世代育成。

久邇ガバナーの出された地区目標は、ロータリーの将来はあなたの手中にある。あなたの手を使って自分でロータリーの将来を築いてゆかなければならない。と解釈されたとおりに、「ロータリアン一人ひとりの責任」と捉え、是非とも、地区目標を活動の指針として実践していきたい。

その上で次の三点を多摩中グループの皆さんと考え、行動していくために提案いたします。

- 1). 12クラブ合同例会(IM)を開催(親睦、交流とロータリアンの意欲喚起)、
- 2). 各クラブ間の交流の推進(集団メーキャップ=合同例会)、
- 3). CLPの推進(組織の簡素化→魅力あるクラブづくり)。

いま、ロータリーが会員減少を危惧しております。RI会長ケニーさんの会員維持にエネルギーを注ぐことが大事とすることが魅力あるクラブづくり、ニーズにあった充実した奉仕活動が求められているのではないかと考えます。

ロータリーはすべてが、クラブに始まり、クラブに終わります。「クラブあつてのロータリー」を大切に活動してまいりたいと思います。

